

体や心の変化など学ぶ

城南中で思春期講座

新宮市

新宮市立城南中学校

程を教えた。

(中田善夫校長)でこのほど、思春期講座があった。2年生61人が、那智勝浦町でかつこ助産院を営む助産師の本館千子さんから思春期の体や心の変化、悩み、性の多様性などについて教わった。

本館さんは生徒たちに小さな穴が開いたハートの折り紙を手渡し「これは皆さんをはじめ、全ての人の命が始まった瞬間の大きさ。数字にすると約0・12ミ^リあります」と説明。生まれてくるまで約10カ月かかり、母親の胎内で成長して身長約50センチ、体重約3キ^ロになる過

生徒は赤ちゃんの人形を使って重さを体験。

「重たい」「首が柔らかい」などと声をあげながら順番に抱っこしていった。本館さんは、赤ちゃんが生まれてくるには「母親の命の道を通る」と、おなかを切る「帝王切開」の2種類の方法があると紹介した。

女性の骨盤は器のよう



本館千子さん

になっており、赤ちゃんが自力で回りながら出ようとすることを模型で実際の動きを解説し「赤ちゃんは自分の力で考えて生まれ、出産予定日なども決める。『生まれる』ことは素晴らしい、すごいことです」と語った。

二郷ことねさん(13)は「赤ちゃんが1カ月ごとに成長していく説明をしてくれて分かりやすかった。改めて自分の体を大切にしていこうと思いました」。平美結衣さん(14)は「日頃、学校では学ぶ機会が少ない授業を受けられて勉強になりました。将来に向けて健康的な体づくりをしようと思う」と話していた。写真は同校提供。

(榮本康人)



人形を使って赤ちゃんの重さを体験する生徒

新宮市立城南中学校